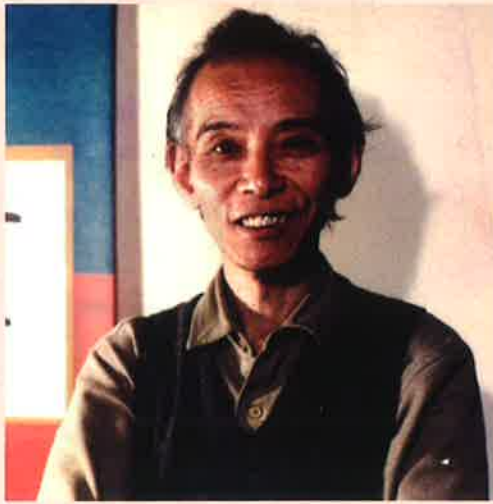


うちだ てる お
内田 皓夫



内田皓夫（1920～2000）は神戸市に生まれ、少年時代を尾道で過ごしました。卒業論文「茶と住」で柳宗悦（1889～1961）の目にとまり、柳のもとで働くこととなります。その中で縁あって型絵染で人間国宝に登録された芹沢銈介（1895～1984）と親交を深めました。その後、東京から祖母の郷里である三原に移り住み、本町に構えた工房で制作活動を続けました。

内田は、紅型と呼ばれる沖縄の染め技法を用い、シンプルながらも色彩豊かな作品を生み出しました。三原やっさ祭りの記念はがきを長年制作し、包装紙なども手掛け、まさに三原で親しまれた作家といえるでしょう。

本展では、内田の作品だけでなく、制作過程で使用される型紙や芹沢銈介の作品も展示します。型染の世界をお楽しみください。



- 上 「倉敷」 内田皓夫
1985年 個人蔵（第1会場にて展示）
- 下左 「野のほとけ」 内田皓夫
1993年 個人蔵（第2会場にて展示）
- 下右 「三原やっさ祭り記念はがき 原画」
内田皓夫 1976年 個人蔵（第1会場にて展示）

【第2会場】三原市芸術文化センターポポロ

リハーサル室

【特別企画】

三原の作家を知る・味わう

～ 染織家 村上陽子・木村恵子 ～

糸を染めて織られた着物や帯は、いつしか普段着や傘へと形を変えて思いのままに制作を続ける村上陽子さん。

糸を紡ぎ、染めて織るという手間暇をかけ、独自のスタイルで丁寧に制作をする木村恵子さん。

お二人の手仕事と魅力あふれる作品をご紹介します。

アクセス

【第1会場】

三原市民ギャラリー

- ・三原駅より徒歩1分

【第2会場】

三原市芸術文化センター ポポロ

- ・三原駅より徒歩約20分
- ・三原駅より4番バス乗場「田野浦線」で約5分
「芸術文化センターポポロ・医師会病院入口」下車すぐ

